

8月に入りました。連日、猛暑日が続いています。どんなに地球温暖化について配慮してエアコンの使用を控えようと思っても、この暑さにはかなわない。エアコンを使用せざるを得ません。「地球環境に負荷をかけているのかな？」と少々後ろめたい思いをしながら、“文明の利器”の恩恵を受けている今日この頃です。



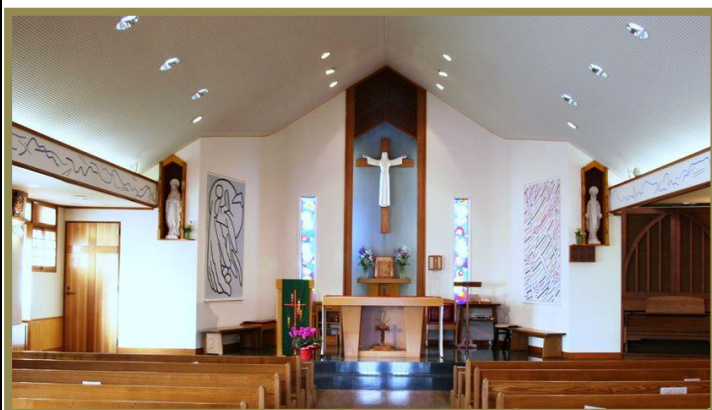
ところで最近、聖書を読んでいてフト気になったイエス様の言葉があります（フランシスコ会聖書研究所訳を引用します）。

あなた方によく言うておく。どんなことであれ、もしあなた方のうち二人が心を一つ

にして地上で願うなら、天におられるわたしの父はそれをかなえてくださる（マタイ福音書 18 章 19 節）。

人によっては「共同祈願でお祈りしても、なかなか平和な世界は実現しないねー」「現実、そんなに甘くないよ」という思いで、そのイエス様の言葉に半信半疑の方もいらっしゃるかもしれません。それに対して、私は反省しています。「私たちの唱える願いは口先だけで、本当に心を一つにしてこなかったんじゃないか」と。

皆さんは、「心を一つにする」という言葉から何を思い浮かべますか？人によっては体育会系の「しまっていくぞー」「おーっ！」のノリを思い浮かべる方もいらっしゃるかもしれませんが、私は“共通理解”あるいは“共通理念”を思い浮かべます。



現在の教会運営に関して、小教区レベル・教区レベル・日本の教会レベルで、（司教・司祭も含めて）信者の皆さんの共通理解が形成されていないんじゃないか、と思うんです。つまり、思い・願いはバラバラの状態。日本の教会で福音宣教が停滞している原因の一つは、これじゃないか？

その昔、ナイス1・ナイス2という日本の教会レベルでの壮大な会議が行われたようです。私の勉強不足で、その詳細についてはよく知らないのですが、試みとしては素晴らしかったにもかかわらず、結局、共通理解・共通理念の形成に十分ではなかったのかな？

私も経験上思います。「共通理解・理念の形成ってそんなに簡単なことじゃない」と。これまでご縁のあった小教区でも、信者さん全体の共通理解・理念の形成を、私の意識不足・力不足で怠ってきた。教区レベルでは・・・おなしい。

これからの教会・小教区・（教会・教区の）社会事業は、どうあるべきか？どんな体制・方法で臨むべきか？踏み込める具体性には限界があるかもしれませんが、小教区レベルでも教区レベルでも、共同体のみんなで共通理解・理念が形成できれば、いいですね！

井手公平